



愛知医科大学

〒480-1195
愛知県長久手市岩作雁又1番地1
TEL:0561-62-3311
FAX:0561-62-4866

<https://www.aichi-med-u.ac.jp/>



愛知医科大学



人とイノベーションで 明日の医療を支える

移り変わる時代の中で、医療も変わる必要があります。

そこには、変化に対応し高い実践力を持つ、これからの医療を創る人が不可欠です。

愛知医科大学は時代に即した“イノベーション”で進化し、明日の医療に貢献できる“人”を育成します。

愛知医科大学

充実した環境のなかで
新しい時代の医療を担う医療人を育成する



Doctor-Heli

愛知医科大学病院
AICHI MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL

診療・教育・研究のすべての領域において
医療を基盤とした社会貢献を目指す

愛知医科大学病院

CONTENTS

NEXT50 ～創立50周年に向けて～ …… P.03
 理事長 MESSAGE …… P.05
 学 長 MESSAGE …… P.06

FEATURE

地域とつながり社会へ貢献する …… P.07
 充実の教育環境で行う人材育成 …… P.09
 卓越した研究活動と最先端医療 …… P.11
 救急医療や災害医療に幅広く対応 …… P.13

大学 …… P.15
 医学部医学科 …… P.17
 看護学部看護学科 …… P.19
 大学院 …… P.21
 国際交流 …… P.22

大学病院 …… P.23
 AREA INFORMATION …… P.25
 ACCESS …… P.26

NEXT 50

創立50周年に向けて

2022年をもって、愛知医科大学は創立から50周年を迎えます。本学は、「建学の精神」に謳われている良き医療人を育てて地域に役立つという目的を踏まえ、将来ビジョンとして『社会から評価され選ばれる医科大学』を掲げています。この将来ビジョンを学是として定めた「具眼考究」の理念の下、教職員・学生が一丸となって、これからも走り続けていきます。

附属病院棟



大学本館



看護学部棟



新病院(中央棟)



1970

- 1971 12.25 愛知医科大学(医学部医学科)設置許可
- 1972 4.11 医学部第1回入学式
- 1974 5.30 新附属病院使用許可
- 9.9 高等看護学院設置認可(1976.9.20 看護専門学校に改称)
- 1979 7.1 附属病院救命救急センター開設



専門棟

1980

- 1980 3.26 大学院医学研究科設置認可
- 6.4 大学院医学研究科第1回入学式
- 1981 4.23 情報処理センター設置
- 1983 4.1 加齢医科学研究所設置
- 4.20 メディカルクリニック開設許可
- 12.21 附属動物実験施設設置(1988.4.1 動物実験センターに改称)
- 1987 10.1 運動療育センター設置
- 1988 4.1 核医学センター設置
研究機器センター設置
分子医科学研究所設置
附属図書館を
医学情報センター(図書館)に改称



高等看護学院棟

1990

- 1993 6.16 産業保健科学センター設置
- 1994 2.1 附属病院が特定機能病院に承認
- 1996 3.28 救命救急センターが高度救命救急センターに認定
- 1999 12.22 看護学部看護学科設置認可



ドクターヘリ(2002年1月運航開始)

2000

- 2000 4.5 看護学部第1回入学式
- 2001 6.16 薬毒物分析センター設置
- 2002 1.1 学際的痛みセンター設置
- 4.26 看護専門学校廃止認可
- 2003 11.27 大学院看護学研究科設置認可
- 2004 4.1 医学教育センター設置
- 4.7 大学院看護学研究科第1回入学式
- 2005 4.1 病院名を愛知医科大学病院に改称
- 2008 4.1 総合医学研究機構設置
臨床試験センター設置
先端医学・医療研究拠点設置
看護実践研究センター設置

2010

- 2010 4.1 総合医学研究機構を改組(動物実験センター、核医学センター、研究機器センター、臨床試験センターを同機構の部門として統合)
- 2012 1.4 長久手市市制施行に伴う所在地名地番の変更(愛知県長久手市岩作雁又1番地1)
- 3.31 先端医学・医療研究拠点廃止
- 4.1 先端医学研究センター設置
- 2014 4.23 新病院(中央棟)使用許可
- 11.1 災害医療研究センター設置
- 2015 4.1 国際交流センター設置
シミュレーションセンター設置
- 2016 4.1 先端医学研究センター廃止
研究創出支援センター設置
- 2017 4.1 総合学術情報センター設置(医学情報センター(図書館)廃止、情報処理センター廃止)

2020 2022

建学の精神

本学は、新時代の医学知識、技術を身につけた教養豊かな臨床医、特に時代の要請に応じて地域社会に奉仕できる医師を養成し、あわせて医療をよりよく発展向上させるための医学指導者を養成することを目的とする。

そのため、医学を中心とした広汎な基礎的知識を授け、深い専門的技術を教授研究し、心身ともに健康なる医師を養育し、その知的、道徳的能力及び社会的有用性の向上を期している。

なお、私学の特性に鑑み、その自主性を重んじ、公共性を高めることによって、私立医科大学の健全なる発展を図り、社会福祉、殊に地域医療に貢献するとともに、東南アジアその他発展途上国の医療の進歩、向上に協力せんとする。

本学の修業年限は6年で、その間の教育に一貫性を期するとともに、研究の交流を図るために、その組織を基礎科学、基礎医学、臨床医学の各部門にわかち、それぞれの緊密なる連携を図ることにした。この点本学が新しい構想のもとに企画したところであり、本学の特色とするところである。かくして新しい「カリキュラム」をもって人間形成及び創造性の啓発を図り、人命の尊厳を守り、ヒューマニズムに徹し、各自の自主的、自発的勉学を尊重し、人間としての自覚にたった医学教育を目指しているのである。

学是

ぐ がん こう きゅう
具眼考究

「具眼」とは、江戸中期の画家で近年脚光を浴びている伊藤若冲の言葉として知られていますが、「確かな眼」、「見通す眼」、「眼力」、「慧眼」といった意味であり、医学的には「正しくみる」ことを意味します。「みる」とは「診る」、「看る」、「見る」、「観る」、「視る」のすべてを含み、個々の患者の正確な病態とともに生物学的、心理学的、経済的、社会的なすべての視点に立った包括的、全人的に患者を把握する感性を意味します。さらに卓越した研究・教育それに大学の正しい未来の方向性の洞察には「具眼」が必要です。「考究」とは、「具眼」によって得た神髄を深く考え、それに対して正しく対処して究めることを指します。

優秀な人材を育成し 医学・医療・福祉に貢献します

愛知医科大学は、名古屋市近郊の長久手市にあります。長久手市は、多くの大学などがある学園都市ですが、2005年に万博「愛・地球博」が開かれたところであり、住民の平均年齢が全国的にも大変若い市です。加えて最近の調査によりますと、日本に800以上ある市の中で、住むのに最も快適な場所の一つとしての評価を得ています。

愛知医科大学は、1972年に建学された比較的新しい大学ですが、1980年度に大学院医学研究科、2000年度に看護学部、2004年度に大学院看護学研究科が設置され、2学部・2研究科体制となりました。これまでの医学部卒業生数は4,214名で、そのうち4,170名(99.0%)が医師となっています。また看護学部卒業生は1,693名で、そのうち1,691名(99.9%)が看護師・保健師として日本全国で活躍しております。

建学から47年が経過しておりますが、2006年から40周年記念行事として環境の再整備が始まりました。学生の学修の場である医心館を始め、保育所、新立休駐車場の構築、2014年5月には、最高の機能を持つ新病院(中央棟)が完

成しました。数々の最先端医療機器も取り入れ、最先端医療が可能なこの病院は学生の臨床教育の場としても十分に活用されております。このキャンパス再整備も、昨年で全てが完成し、これから入学される学生諸君はこの新しい環境で勉学に励むことができます。

愛知医科大学は、「社会から評価され、選ばれる医科大学」を目指してこれまで努力してきました。よい環境とよい指導者による優れた教育・研究・診療に加え、愛知医科大学の存在価値を示す特色ある大学を目指しています。その結果、本学を卒業された医師・看護師が優秀で人間的にも素晴らしく、かつ、急速に変貌しつつある医療・福祉分野のニーズに十分に対応できる人材に育つことを最終目標といたしております。

学校法人愛知医科大学
理事長

祖父江 元

1975年名古屋大学医学部卒業、1995年名古屋大学医学部神経内科教授、2001年名古屋大学総長補佐、2009年名古屋大学大学院医学系研究科長・医学部長、2015年名古屋大学大学院医学系研究科神経変性・認知症制御研究部特任教授、2018年学校法人愛知医科大学副理事長などを経て、2019年1月より現職。



医学・医療の最先端を走る

愛知医科大学は、1972年医学部医学科として開学し、看護学部や大学院研究科を併設してきました。

医学部及び看護学部学生の実習施設である愛知医科大学病院は、「生活時間の最大活用」をキーコンセプトに、待ち時間の短縮、待ち時間の有効利用を実現すべく構想され、2014年に新病院が開院しました。約8割の患者さんにおいて、採血採尿:約15分、院内処方:約10分、会計:約4分と待ち時間が大きく短縮されており、平均在院日数は10日台と大学病院ではトップクラスとなり、手術件数も1万2千件超になる等、類を見ない近未来病院として活動を続けております。

医学部では、日本医学教育評価機構(JACME)の医学

教育分野別評価の受審を9月に控え、カリキュラムの見直しを含め、自己点検・評価プロセスを加速させております。看護学部では、本年度より長久手高校と高大連携を進め、医療看護コースの講義・実習を担当しています。直近2年の国家試験合格率(新卒)は、医学部94.4%・95.4%、看護学部100%・100%と高い教育成果を示すことができました。

急速に進歩する医学・医療の世界において、最先端技術・機械を駆使し、高度な医学・看護学教育を実践しつつ、患者さんの早期社会復帰を可能とする医療を実践し続けてまいります。

愛知医科大学
学長

佐藤 啓二

1976年名古屋大学医学部卒業、1997年愛知医科大学医学部教授(整形外科講座)、2002年愛知医科大学医学部附属病院病院長、2005年新病院建設委員会委員長などを経て、2014年4月より現職。



地域とつながり 社会へ貢献する

1 自治体・企業・高等学校との連携

本学は、2012年からこれまでに三つの市(長久手市・北名古屋市・尾張旭市)と包括連携協定を締結し、保健・医療・福祉を始め、人的交流やインターンシップ、知的・物的資源の相互活用、ボランティア支援協力、地域のまちづくりなどの幅広い分野で協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的とした活動を実施しています。また、長久手市と株式会社長久手温泉とも覚書を締結し、「健康増進」をテーマに、各種講演会やセミナー等を実施しています。

また、愛知県が毎年夏に開催しているリニモツアー(主催:東部丘陵線連絡協議会)にも協力しています。ドクターヘリの見学会やフライトドクター・ナースの講演会を行い、近隣の小学生や保護者の方々に大変好評いただいています。

2017年には、愛知県立長久手高等学校と高大連携協定を締結しました。2019年に開講された医療看護コースにおいて、本学看護学部教員が出張講義を行うなど、大学と高校の連携を更に深め、教育・研究活動の活性化を目指しています。



連携公開講座



リニモツアー

愛知県	北名古屋市	株式会社長久手温泉
長久手市	尾張旭市	長久手高校

2 健康増進施設 運動療育センター

医師、看護師及び健康運動指導士等の資格認定を受けた理学療法士やトレーナーが連携し、一人ひとりの健康状態に合わせた安全で効果的なトレーニングをご提供致します。疾病をお持ちの方向けの運動療法コース、現在疾病をお持ちでない方向けの健康増進コースなど複数のコースがあり、幅広い年齢層の方にご利用いただける施設です。



愛知医科大学は、これまでに良き医療人を育成するとともに、公開講座の開講や諸施設の開放などを通して、地域住民の方々との連携を図ってきました。大学病院では、1974年の開院以来、患者さんの視点に立った医療によって地域を支えてきました。本学はこれからも自治体や関係企業・団体との連携を深め、社会へ貢献できるように努力を続けて参ります。

3 専門医・看護師・医療スタッフが 治療方法などを分かりやすく解説



元気ホスピタル—最善の医療をめざして
愛知医科大学病院の最新医療

愛知医科大学病院は、2018年1月31日付けで、がんを始め代表的な疾患の治療方法などを紹介する書籍を発行しました。医療情報がインターネットなどにあふれる中、最先端の正しい知識を分かりやすく解説しています。愛知医科大学病院内の売店や一般書店で販売されています。



4 高度な医療および技術を提供し、 地域社会に貢献する

メディカルクリニック(名古屋市東区)

愛知医科大学メディカルクリニックは、名古屋市東区東桜に位置し、大学病院と地域開業医とのパイプ役として、地域住民の健康回復や維持・増進を図りながら、地域医療への貢献に努めています。高度かつ専門的な外来診療を行い、必要な場合には大学病院を始めその他の医療機関などと連携し、安心・安全な医療を提供することを目指しています。紹介状がない場合でも受診することができますので、安心してご来院ください。

患者数(2018年度) 1日平均患者数 > 138名 紹介患者数 > 509名

メディカルクリニック

〒461-0005 名古屋市東区東桜二丁目12番1号
TEL:052-931-2261 FAX:052-931-4841

地下鉄
ご利用の場合

- 東山線「新栄町」駅下車 1番出口から北西へ徒歩約7分
- 桜通線「高岳」駅下車 4番出口から南東へ徒歩約3分
- 東山線 ■ 名城線「栄」駅下車 4番出口から北東へ徒歩約12分

【診療科目】

消化管内科、肝胆膵内科、循環器内科、呼吸器・アレルギー内科、神経内科、腎臓・リウマチ膠原病内科、血液内科、糖尿病内科、精神神経科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、総合診療科、睡眠科、痛みセンター



充実の教育環境で行う 人材育成

豊かな緑と自然に囲まれた愛知医科大学には、学びを深める充実した教育環境が整っています。キャンパス内全ての講義室やセミナー室には、Wi-Fiが整備されるなどICT環境も充実しています。学生たちは、パソコンやタブレットを用いて、Webを通じた講義資料等の利活用ができる授業支援システム「AIDLE-K」を活用し、効率的に勉強しています。また、学修の履歴・成果を蓄積できるシステム「eポートフォリオ」の運用管理も総合学術情報センターが中心となって進めています。シミュレーションセンターでは、高度な臨床技術を習得するために、医学部、看護学部、大学病院を問わず、学生や医療従事者の学修を支援し、質の高い安全な医療の提供に貢献しています。

1 知の拠点として快適な学修環境を整備 総合学術情報センター

総合学術情報センターは、大学本館5階と6階にあり、図書館部門、ICT支援部門及び情報基盤部門の三つの部門が設置されています。この三部門が一体となって、新時代に向けた「知の拠点」として、さまざまな媒体の学術情報を蓄積し、利用できる場であり続けるとともに、教職員及び学生がICTを利活用して「自ら学修し、自ら気づき、自ら成長する」拠点として整備されています。



3 診療・看護に必要な知識・技術・態度の習得を支援する シミュレーションセンター

全身状態を変化させられる高機能のシミュレーターを用いた診療・看護技術の習得や静脈注射、超音波などの処置・検査技術の習得などさまざまなプログラムを提供しています。実践前の練習、日常の技術の確認、遭遇の少ない状況の模擬体験などを自由に選択し、学修できる環境が整っています。



4 看護職者に対する卒後教育・研究支援活動を行う 看護実践研究センター



看護実践研究センターには、キャリア支援部門、地域連携・支援部門の二部門があります。大学・大学院を始め、医療機関や地域との有機的な連携を通して、看護実践の開発に関わる教育・研究支援事業、地域住民や専門職に対する生涯学習事業、健康増進のための支援事業などを行っています。

2 医学教育の改善・改革を図る 医学教育センター



医学教育センターは、大学本館7階にあり、医学教育カリキュラムの策定・評価・実施、FD(ファカルティ・デベロップメント)の企画・実施、留年者に対する進級・卒業支援などを行い、本学における医学教育の改善を図っています。会議室、学生開放スペースなどを備え、本学における医学教育活動の拠点として活用されています。

5 国家試験に向けた学修施設 医心館

大学本館に隣接する医心館は、主に医学部6学年次生及び看護学部4学年次生が利用しており、国家試験に向けてグループ学修の場を提供しています。セミナー室や個人ブースで学修できる視聴覚室があり、学生が集中して勉強できる環境が整備されています。



卓越した研究活動と 最先端医療

研究活動を活性化させ、より多くの研究成果を生み出すことが大学の使命です。

愛知医科大学では、その力を十分に発揮することができるよう研究環境の整備に取り組んでいます。

また、大学病院ならではの高度な医療を提供するために、常に新たな医療技術を取り入れ、

最先端医療の実現に力を注いでいます。

1 研究活動の活性化と研究成果の創出 研究創出支援センター



研究創出支援センターには、研究支援部門、共同実験部門、バイオバンク部門の三部門が置かれています。研究支援部門は、主に外部資金の獲得、産学連携などを担い、共同実験部門は、共同実験室の管理・運営を担います。加えて、バイオバンク部門は、臨床検体の収集・管理を行います。品質が担保された検体を適切に保管することにより、臨床研究や企業との共同研究に役立てることが可能です。各部門が一体となって、研究活動に関する総合相談、若手研究者の育成支援、研究基盤の整備を通じた総合的研究支援も積極的に実施しています。



4 研究の活性化を支援する 総合医学研究機構

研究支援業務の充実、研究に関する教育システムの構築などに取り組んでいます。研究機構には、動物実験部門、核医学実験部門、高度研究機器部門の三部門が置かれ、各部門では研究者への設備・備品への相談・要望に対応するほか、定期的な講習・実習等を実施するなど研究支援業務を行っています。



5 治験や臨床研究をサポート 臨床研究支援センター



企業治験や医師主導治験、臨床研究に対応し、新しい医薬品や診断法、治療機器、手技などの有効性や安全性を確認するための管理業務を行っています。疾病の予防や治療、症状の軽減につながるより良い医療を提供できるよう治験や臨床研究を通して医療の進歩に貢献していきます。

2 神経病理学の最先端を行く 加齢医科学研究所

神経病理部門とプリオン病解剖部門の二部門を有し、年間150例の剖検脳の病理学的検討を行っています。更に、ブレインリソースセンターを設立し、加齢に伴う脳・脊髄の病理学的変化の検討、神経変性疾患の臨床病理学的検討、脊髄疾患の病理学的検討という三つの主要テーマの下に学内外の共同研究者とともに活発な研究を実施しています。国内における代表的な神経病理学の教育・研究施設の一つとして活動しています。



3 細胞外マトリックスの 構造・機能を探る 分子医科学研究所

本研究所は、細胞外マトリックスの構造と機能の研究を行っています。多細胞動物の細胞周囲にはコラーゲン、エラスチン、ヒアルロン酸、プロテオグリカン等からなる細胞外マトリックスという特殊な構造があり、この構造は組織・臓器の形をつくり細胞の挙動を制御しています。細胞外微小環境の本体であるマトリックスに着目した研究は、炎症、腫瘍等の病態解明に直結するのみならず皆さんの健康増進にも繋がる重要な研究といえます。



6 手術の安全性向上と低侵襲を実現 内視鏡手術支援ロボット導入

愛知医科大学病院は、2012年から内視鏡手術支援ロボットを導入しています。ロボット支援手術の特徴は、体に小さな穴を開けて内視鏡を挿入し、3D画像で視認しながら複雑で繊細な操作が可能です。通常の開腹手術に比べて傷口が小さく、体への負担を抑えることができるなど、より安全で確実な手術の実現に役立っています。



救急医療や 災害医療に幅広く対応

救急医療の更なる発展に向けて、愛知医科大学では日々教育・研究・診療に取り組んでいます。

大規模災害に備えた災害医療研究や教育体制も整備し、災害医療の啓発活動にも積極的に取り組んでいます。

愛知県で唯一の高度救命救急センターの指定を受けた愛知医科大学病院では、ドクターヘリやドクターカーを配備し、シームレスな救急体制を構築しています。

また、基幹災害拠点病院として、災害派遣医療チーム(DMAT)の活動も推進しています。

1 空飛ぶER ドクターヘリ



2002年1月から愛知医科大学病院を基地病院としたドクターヘリシステムが本邦で4番目の事業としてスタートし、現在では全国で53機のドクターヘリが配備されています。(2018年9月現在)

救急医療対応(ER)型ヘリコプターが常時待機し、主に消防機関からの要請を受けて、救急医療専門の医師・看護師が迅速に出動できる体制を整えています。機内には最新の医療機器を装備し、救急現場において直ちに治療を開始することによって容体の安定化を図り、患者さんにとって最も適切な医療機関に搬送して予後の飛躍的な改善に貢献しています。

現在の活動範囲は、愛知医科大学病院から半径70km圏内が中心ですが、大規模災害発生時にはヘリコプターの機動性を如何なく発揮できるよう隣接各県(岐阜・三重・静岡・長野)のドクターヘリとも連携できる体制が構築されています。

出動実績 (2018年度)	救急現場	334件
	病院搬送	40件
	キャンセル件数	135件
	合計	509件

3 24時間体制で重篤患者に対応 高度救命救急センター



ドクターカーとDMATカー



EICU(救急集中治療室)

愛知医科大学病院は、愛知県で唯一の高度救命救急センターに指定された施設として、24時間365日の受け入れ体制を構築し、救急蘇生外傷治療室、三次初療室、EICU、HCU、緊急検査室などが連携して対応しています。三次救急医療機関としての役割に加え、2011年4月1日からは「救急告示医療機関」としての指定を受け、一次、二次対応の救急車の受け入れを更に強化しています。

TOPICS

ドクターヘリ格納庫の運用が開始されました!

2018年5月から、ヘリポートの隣接地に建設したドクターヘリ格納庫の運用が開始されました。これまで県営名古屋空港で行っていた機体の点検・整備を病院の敷地内で行うことができるようになり、救急医療活動を支えるより一層の運航環境が整備されました。格納庫の運用開始に当たり、ドクターヘリ運航関係者や大学関係者400名超が集まり、盛大な記念式典及びテープカットセレモニーが開催されました。



4 災害時における医療救護活動の拠点 基幹災害拠点病院

2006年9月から災害拠点病院の中核を担う基幹災害拠点病院として、愛知県の指定を受けています。災害時における傷病者の受け入れだけでなく、被災地で医療支援を行うDMATを保有し、県内の災害拠点病院への災害医療研修など幅広い役割を果たしています。また、2008年には愛知県から「愛知DMAT指定医療機関」の指定を受け、人材育成にも力を注いでいます。



2 災害医療研究の拠点化を目指す 災害医療研究センター

我が国では、南海トラフ地震や首都直下地震の発生が切迫しており、災害医療体制の充実強化が急務となっています。災害医療研究センターでは、災害医療に関する教育(普及活動、研修、訓練の実施)や研究を行うとともに、大規模災害時の被害を軽減するため、国・愛知県等の行政機関を始め、近隣市町村との官学連携を通じて、啓発活動の推進や研修機会の提供などを推進しています。



災害医療コーディネイト研修(愛知県・愛知県医師会と共催)



5 DMAT・DPATの派遣 災害派遣医療チームの活動

DMATは、災害現場での救命処置や災害拠点病院の支援、重症患者の広域医療搬送などを行う機動性を持った専門的な訓練を受けた医療チームです。愛知医科大学病院のDMATチームは4チームあり、1チーム当たり4~5名で構成されています。医師や看護師を始め、調整員として、救急救命士、薬剤師、放射線技師、事務職員が登録されています。また、集団災害発生時に精神保健医療活動を行うチームとして、熊本地震の被災地へ3名のDPAT隊員を派遣しています。

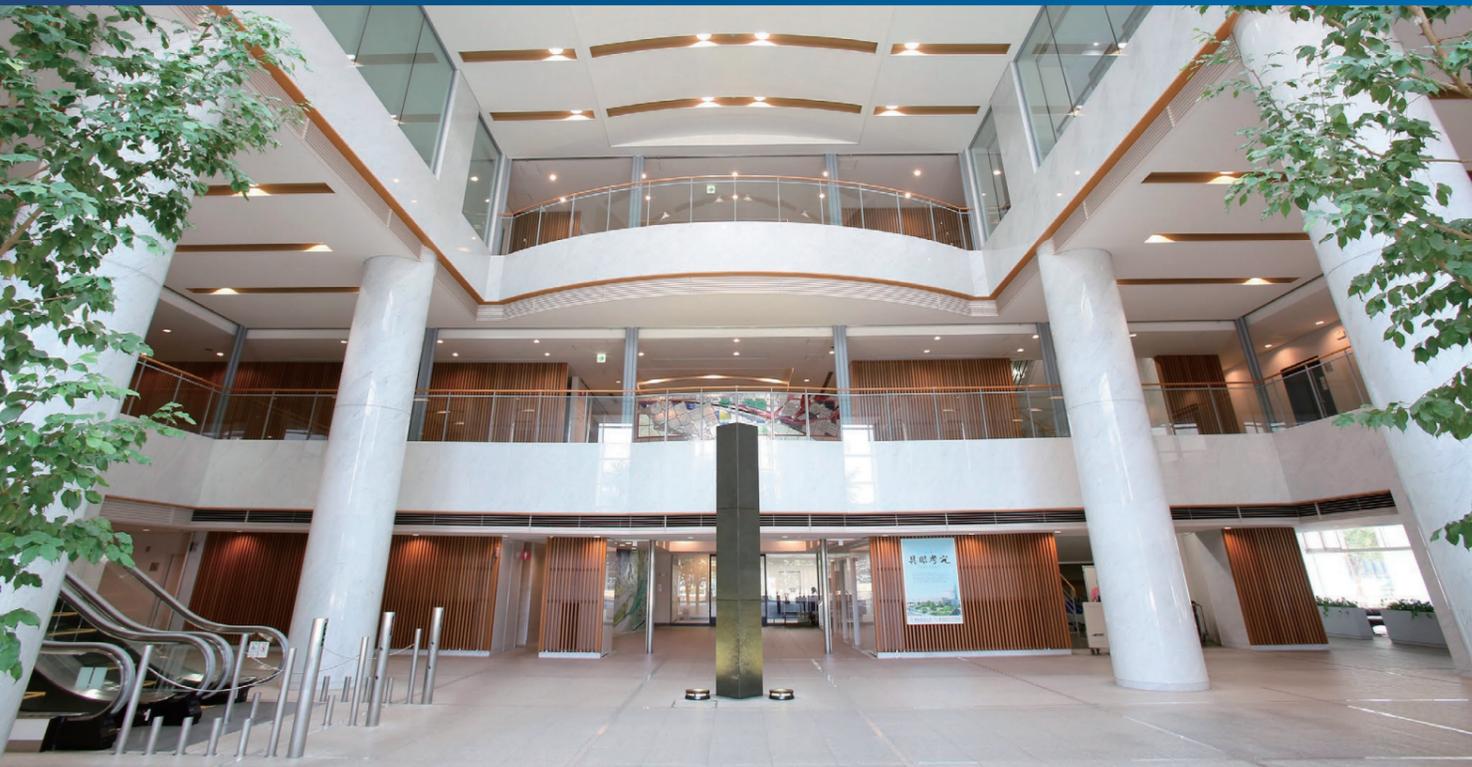


2016年4月に発生した熊本地震の被災地へDMAT・DPATを派遣



大学

社会から評価され選ばれる
医科大学をめざして



職員数 (2019.5.1現在)

総計 2,362名

学長	1名
教育職員	659名 [※]
教授	108名
准教授	66名
講師	107名
助教	181名
医員助教	99名
専修医	98名

※特命教授・特務教授を含む。

事務職員	219名
司書	4名
技術技能職員	108名
業務職員	8名
医療職員	338名
看護職員	1,025名

理念・目的

愛知医科大学は、「新時代の要請に応え得る医師を養成し、あわせて地域住民の医療に奉仕すること」を『建学の精神』の主眼点とし、1972年度に医学部のみの単科大学として開学しました。2000年度には、「多種多様な社会的ニーズに迅速かつ積極的に応え、広い視野と高い教養をも備えた看護職者を養成すること」を目的とした看護学部を開設し、2学部を擁する医系大学となりました。

本学の理念・目的は、「充実した教育・研究環境のなかで、新時代の医学医療を担う人材を育成するとともに、私学の特性を鑑み、社会福祉、殊に地域医療への貢献と国際的な医療の進歩・向上への協力を目指すこと」です。

校章

常緑樹である橘は、古くから京都御所で「右近の橘」として珍重され、文化勲章のデザインにもなっています。また、中国の故事に、橘の葉と井戸水により多くの疫病患者を治療してとあり、後に橘井(きっせい)という語が医師を意味する言葉として使われるようになりました。本学では、橘の示す力強い意気をもって世界人類の幸福に貢献するという思いを込めて校章に使われています。



シンボルマーク

全体構成は、愛知の「A」を基本形に、医科の「I」と「K」、更には「人」という文字をイメージしており、医療メスと水平線に見立てたラインは、人と地域に貢献する医療の在り方を表現しています。カラーは、大学が知識と冷静さを感じさせる深いブルーからグリーンへグラデーション、大学病院は自然豊かな長久手の環境をイメージしたグリーンのグラデーションで表されています。



スクールカラー

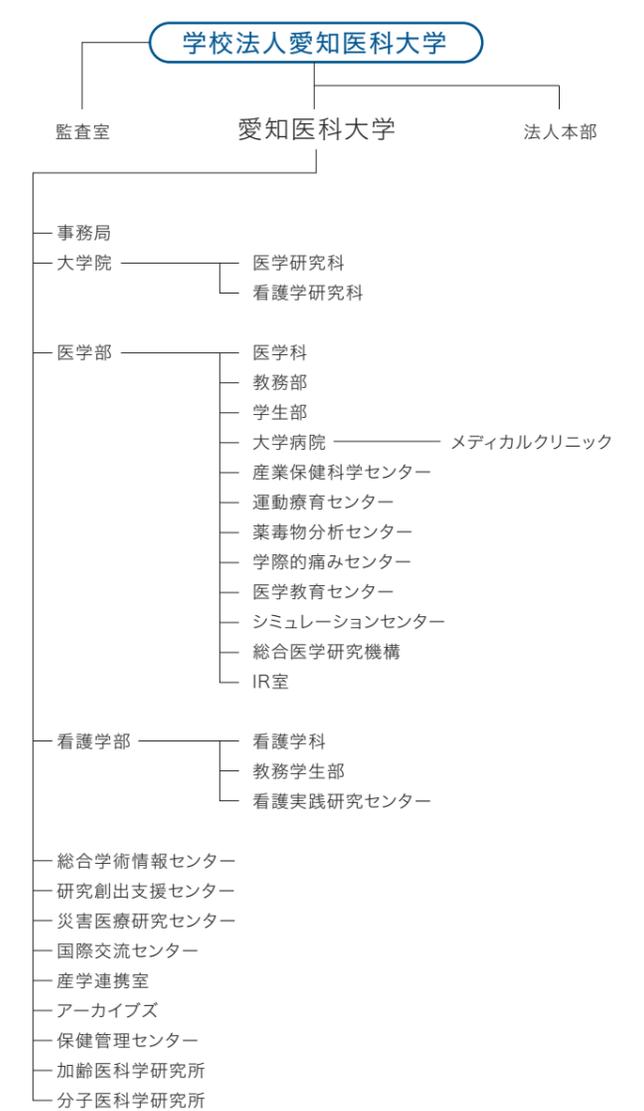
- パール・アイボリー(どこまでも深い愛)**
医学に携わる者の出発点でもある。我々には、終着点はない。深い海のフトコロに育まれた真珠のように、人類の幸福に貢献する精神である。
- サファイヤ・ブルー(鋭い理性と冷静さ)**
サファイアに宿る静寂をたたえたその者が、医学に携わる者の一つの姿勢を表している。
- アラカルト・グリーン(豊かなみのり)**
大地を覆うみどりの沃野、それは我々の願いであり、また、我々の手によってつくり育てなければならぬもの。

行動指針

愛知医科大学は、これまでも「特色ある医科大学づくり」を基本方針とし、存在意義を明確にする医科大学づくりに努めてきました。今後は、これまでの諸活動を一層発展させ、「社会から評価され、選ばれる医科大学」を基本方針とし、改善の重点項目として次の三つの行動指針を定め、競争時代を勝ち抜くべく、教育・研究・診療にかかわるすべての領域において、更なる飛躍のための新たな改革実現に取り組んでいきます。

- 選ばれる医科大学** 「選ばれる医科大学」活動により地域社会との連携強化と貢献を目指す。
 - 安心・親切・快適** 「安心・親切・快適」を信条に満足度の高いサービスを提供する。
 - 自主自立・向上・協調** 「自主自立・向上・協調」精神により自己実現する職員を目指す。
- (常任理事会2005年10月17日)

組織機構図



医学部 医学科



新時代の医療に対応できる優れた医師の養成

医学の研究に豊かな思考力と創造性を発揮し、常に医学の進歩に対応しつつ、高度の知識・技術を身につけた医師・医学者が求められる中、1972年に開学以来、質の高い人材を確保し、新時代の医療に対応できる優れた医師を養成するとともに、地域医療への貢献と国際的な医療の進歩、向上への協力を目指しています。

設置年	収容定員	在籍学生数	卒業生数	たくさんの卒業生が 医師として 活躍しています。
1972年 <small>学生の受け入れを開始して、今年で48年目を迎えました。</small>	683名 <small>(入学定員:115名)</small>	709名 <small>(男性:408名、女性:301名) ※2019年5月1日現在</small>	4,214名 <small>(1977年度~2018年度)</small>	



教育理念

本学医学部の教育理念は、医学知識や技術の習得はもとより、医学を志す者として教養豊かな人間性を涵養することです。すなわち、建学の精神及び学是に基づいた科学的・倫理的判断力、社会貢献の自覚を養い、情緒と品格を兼ね備えた医療人を育成することです。

教育目標

本学医学部は、ヒューマンズムに徹し、医学・医療の社会的使命を進んで果たす医師を養成することを教育目標としています。現代社会は、医学の研究に豊かな思考力と創造性を発揮し、常に医学の進歩に対応しつつ、最新の知識、技能及び態度を身につけることのできる医師又は医学者を求めています。本学医学部では、これらの要請に的確に対応するため、3つの教育目標を掲げています。



- 1 将来の医学・医療の様々な分野に共通して必要な基本的知識、技能、態度を身につけ、生涯にわたる学修の基礎をつくります。
- 2 自主性・創造性を身につけ、問題解決能力を高めます。そして、医学の進歩と、医療をめぐる社会情勢の変化に対応できる能力を涵養します。
- 3 医療を予防・診断・治療から社会復帰までの包括的なものとして捉え、自然科学のみならず、その背景にある心理的・社会的諸問題をも含めて総合的に対応できる力を涵養します。

本学卒業生の 医師国家試験合格率

99.0%
(4,170/4,214名)

国際交流連携大学

6大学 ※2019年5月1日現在
(米国・ドイツ・タイ・韓国・ポーランドの5か国6大学と連携をしています。)

第113回 医師国家試験合格率

94.4% ※新卒のみ
(全国平均 92.8%)

医学部長メッセージ 独自性を活かした医療人の育成

本学では、これまでに4,000名を超える医師を世に送り出し、先端医療から地域医療までの様々な医療・教育現場において、全国で同窓生が活躍しております。医学部においては、「建学の精神」と学是「具眼考究」に基づいた科学的・倫理的判断力、社会貢献の自覚を養い、情緒と品格を兼ね備えた医療人を育成するという教育理念の下、学生の教育と医師の育成に努めております。医療現場においては、高度な専門的知識のみならず全人的医療が求められており、医師だけではなく、看護師、薬剤師を始めとする多職種連携でのチーム医療が必要となります。このため、コミュニケーション能力の向上を意識した教育を重要視しております。これまで医師不足が社会的に問題視されてきましたが、近い将来、医師過剰時代が到来すると言われており、大学間での競争も激しくなる可能性があります。今後、愛知医科大学医学部のブランド化を図り、独自の特色を活かしながら、総合力のあるよき医療人を育成していく所存です。



医学部長
産婦人科学講座・教授
若槻 明彦

看護学部 看護学科

人間性豊かな質の高い看護専門職者の育成

2000年に開設された看護学部では、看護の対象となる人々との信頼関係を築き、人間尊重を基盤とした豊かな人間性と思いやりのあるケアを提供できる看護専門職者を養成するとともに、国際的にも社会貢献しうる質の高い実践者や教育・研究者になりうる看護専門職者の育成を目指しています。



設置年	収容定員	在籍学生数	卒業生数	たくさんの卒業生が 看護師・保健師として 活躍しています。
2000年 学生の受け入れを開始して、 今年で20年目を迎えました。	400名 (入学定員:100名)	413名 (男性:21名、女性:392名) ※2019年5月1日現在	1,693名 (2003年度~2018年度)	



教育理念

人間の尊厳を重んじる豊かな感性と思考力を持ち、対象となる人々と共に健康と幸福を追求し人間的に成長する看護を提供できる専門職者を育成します。科学の進歩と国内外の社会・医療環境の変化に幅広く対応できる質の高い実践者を育成します。また、教育・研究者としての資質を有し、看護学の発展に貢献する看護専門職者を育成します。



教育目標

- 1 思いやりのある豊かな人間性を持ち、人間の尊厳と権利を擁護する倫理的判断力を持つ人材を育成します。
- 2 科学的に分析し、明晰かつ批判的・発展的・論理的に思考するクリティカルシンキング能力を持つ人材を育成します。
- 3 看護専門職者として、対象となる人々の健康と幸福を追求し、科学的根拠に基づく看護を提供できる能力を育成します。
- 4 看護専門職者としての自律性を育むとともに、保健・医療・福祉の連携・協働に取り組む能力を育成します。
- 5 グローバルな視点を持ち、地域社会の健康増進に貢献する人材を育成します。
- 6 生涯学習に主体的に取り組み、教育・研究者としての資質を持ち、実践科学としての看護学の発展に貢献しうる人材を育成します。

本学卒業生の
看護師国家試験合格率

99.9%
(1,691/1,693名)

国際交流連携大学

4大学 ※2019年5月1日現在
(米国・フィンランド・タイの
3か国4大学と連携をしています。)

第108回
看護師国家試験合格率

100% 4年連続で
合格率100%を
達成しました。
(全国平均 89.3%)

看護学部長メッセージ 多様な人々との繋がりのもと看護を学ぼう

私たちを取り巻く社会が大きく変化の中で、看護専門職に求められる役割も地域社会で拡大、多様化しています。社会の変化に対応し、人々の健康支援に貢献することができる能力を備えた質の高い看護専門職の育成が急務と言えるでしょう。看護学部では、2000年度に設立されて以来、豊かな人間性(Humanity)、広い視野と国際感覚(Internationality)、地域社会への貢献(Community)を教育理念とした教育を行い、愛知県を中心に多くの優秀な看護師・保健師を輩出してきました。顔の見えるアットホームな教育環境や隣接する大学病院や学外実習機関との協働による支援の環境は大きな強みとなっています。学生が教員とともに地域に出向き、健康支援活動に参加する地域貢献の機会も積極的に設けています。学生の皆さんとともに、多様な人々との繋がりのもと、看護や健康に関する知を創造し発信できる、わくわくするような学修環境を創っていきたいと思います。



看護学部長
地域看護学・教授
坂本 真理子

大学院

次世代を担う研究者を養成

大学院医学研究科 (博士課程)



医療・医学界を背負う 研究者の養成

ヒューマンリズムの精神を身につけた豊かな人間性と広く豊富な学識を備え、これからの医療・医学界においてリーダーシップを発揮できる研究者を養成することを理念とする4年制の博士課程です。

専攻	授業科目	専攻	授業科目
基礎医学系	解剖学	臨床医学系	内科学
	生理学		麻酔科学
	生化学		精神科学
	薬理学		救命救急医学
	分子医科学		小児科学
	病理学		リハビリテーション医学
	感染・免疫学		皮膚科学
	加齢医科学		放射線医学
	衛生学		形成外科学
	公衆衛生学		口腔外科学
	法医学		病理診断学
	医学・医療教育学		臨床感染症学
	細胞生物学(生物学)		医療薬学
			輸血・細胞治療学
			新生児学
	がん治療学		
	緩和・支持医療学		
	統合疼痛医学		
	災害医学		
	戦略的先制統合医療・健康強化推進学		
	医療安全管理学		
	産婦人科学		

設置から	39年 1980年から学生の受け入れを開始しました。	収容定員	120名 (入学定員:30名)
在籍学生数	155名 (社会人学生:139名) ※2019年5月1日現在	学位授与	課程博士 論文博士 543名 396名 (1983年度~2018年度)

大学院看護学研究科 (修士課程)



次代を見つめた看護の スペシャリストの育成

卓越した看護実践能力を備えた高度専門職業人の育成、絶えず国際的視野を持って研究活動を推し進める研究者、看護の専門的能力を開発する看護教育者・管理者の育成を理念とする2年制の修士課程です。

教育研究分野	専攻領域	コース	
基礎看護学	看護管理学	修士論文	
	母子看護学		
母子看護学	小児看護学		
	慢性看護学		
成人・老年看護学	老年看護学		
	精神看護学		
精神・在宅・地域看護学	在宅看護学		
	地域看護学		
高度実践看護学	感染看護学		修士論文
			高度実践看護師(専門看護師[CNS])
	臨床実践看護学		修士論文
			高度実践看護師(診療看護師)

設置から	15年 2004年から学生の受け入れを開始しました。	収容定員	30名 (入学定員:15名)
在籍学生数	36名 (社会人学生:36名) ※2019年5月1日現在	学位授与	119名 (2005年度~2018年度)

国際交流

世界各地の医療現場を体験し、幅広い視野を育みます

国際交流センター

国際交流センターは、国際的視野を有する医療人の育成を目指しています。教員の海外派遣、外国人研究員の支援、教職員の語学能力の向上など、様々な事業に取り組み、学内外の活発な国際交流を行っています。世界共通の医療人としての資質・姿勢と地域ごとの医療の差異・特徴を学ぶことは貴重な経験であり、医学・医療に携わる人にとって将来の活躍の礎となるでしょう。グローバルズムとインターナショナルな視点を持つ医療人を輩出すべく活動しています。

欧州

1 医学部

ルール大学 ドイツ

2 看護学部

オウル大学 フィンランド

3 大学

ウッチ医科大学 ポーランド

学内サークルIAMU(Heart in Aichi Medical University)を中心に、学生が主体的に交流活動を行っています。同大学の内科・外科などで、本学の医学生が臨床実習を行っています。

福祉先進国フィンランドは、高齢化社会を迎えた時期や高齢者の増加率が日本と非常に似ている国です。本学は、フィンランド中部の中心大学であるオウル大学との間で、教員の受け入れと派遣を実施しています。

2017年11月に医学生を初めて派遣しました。また、これまでに同大学医学部から12名の学生が短期留学に来ています。将来的には、教職員などの交流に繋がっていく予定です。



アジア

4 医学部

コンケン大学 タイ

5 看護学部

マハサラカム大学 タイ

6 大学

東亜大学校 医科大学 韓国

6学年次の学生を対象とした4週間の臨床実習選択コースへ参加するコースがあります。6学年次の学生が、基礎・臨床の各分野から1~2分野を選択して、このコースへ参加しています。

タイ東北部の高等教育の中心を担う国立総合大学で、20の学部にて45,000人の学生が学んでいます。医療系に強い大学としても有名で、医学部、看護学部、薬学部、公衆衛生学部、獣医学部が互いに連携し、高いレベルの教育・研究を行っています。同大学看護学部との間で学生の短期交換留学を実施しています。

2016年度に同大学から研究者を受け入れ、相互の国際的協力を促進する一助となりました。今後は、学生の交流活動を含めたプログラムの実施に向けて協議を進めていきます。

米国

7 看護学部

サンディエゴ大学 カリフォルニア州

米国において、特に多種多様な文化を持つサンディエゴ。当地にあるハーン看護健康科学学部との提携により、南カリフォルニアやメキシコのヘルスケアシステムに関する研究の発展が期待されます。

8 医学部

南イリノイ大学 イリノイ州

6学年次に進級する学生を対象とした8週間のSIU医学部4年生(日本の6学年次に相当)が行う臨床実習選択コースへ参加するコースと、主に3・4学年次の学生を対象とした約3週間のSIU2年生カリキュラムを受講するコースがあります。例年二つのコースを合わせて約10名の学生がプログラムに参加しています。

9 看護学部

ケース・ウェスタン・リザーブ大学 オハイオ州

医学・看護学の分野における教育研究において米国内で高い評価を得ており、中でもフライトナースィングに関する分野では先進的な活動・研究が進められています。同大学のフランス・ペイン・ポルトン看護学部との間で、教員の受け入れと派遣及び学生の短期留学を実施しています。

10 大学

バーモント大学 バーモント州

2018年4月に学生の交流プログラムをスタートし、同大学から2名の医学生を受け入れ、2019年4月に医学生を初めて派遣しました。今後は、更なるプログラムの活性化を目指します。

大学病院

特定機能病院として診療・教育・研究のすべての領域において
医療を基盤とした社会貢献を目指して



病床数	900床
〈内訳〉	
一般病棟	853床
精神病棟	47床

患者数 (2018年度)	
外来患者数(1日平均)	2,653名
入院患者数(1日平均)	737名
手術件数	12,682件

地域医療連携 (2018年度)	
紹介患者数(延数)	32,776名
登録医数	1,893名
登録医施設数	1,701施設

職員数 (2019.5.1現在)

医師	496名*	臨床検査技師	70名	歯科衛生士	5名	臨床技術員	3名
歯科医師	12名	診療放射線技師	61名	視能訓練士	8名	医療技術員	5名
教員	1名	理学療法士	35名	臨床工学技士	19名	調理師	29名
助産師	25名	作業療法士	16名	臨床心理士	5名	看護補助員	2名
看護師	999名	言語聴覚士	7名	精神保健福祉士	2名	業務職員	5名
准看護師	1名	栄養士	14名	社会福祉士	7名	臨床研修医	57名
薬剤師	84名	歯科技工士	2名	事務職員	105名		

*臨床医学講座所属の教員を含む。

1974年に開院した愛知医科大学病院は、現在900床を有する医師養成の教育病院、そして高度先進医療を提供する特定機能病院となっています。また、愛知県で唯一の高度救命救急センターの認定を受け、その他に基幹災害拠点病院、ドクターヘリ基地病院、愛知DMAT指定病院、難病診療拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、エイズ拠点病院、肝炎診療連携拠点病院、愛知県アレルギー疾患医療拠点病院、臓器移植提供施設、地域周産期母子医療センター、認知症疾患医療センターとしての役割も担っています。患者さん本位の質の高い医療を常時提供すべく、優秀なスタッフの育成と施設・設備の充実に努めています。更に、公益財団法人日本医療機能評価機構に第三者審査を委託し、その結果、すべての審査項目にわたり標準以上レベルをマークし、2005年10月に同機構の認定病院として登録され、2015年10月に最新バージョンに更新されています。2014年5月には、最先端の医療機器を導入した新病院を開院しました。延床面積約9万1,600平米、地上15階・地下1階で、基幹災害拠点病院として診療機能を維持できる高性能耐震構造となっています。「生活時間の最大活用」、「医療の可視化」、「地域との協力」をコンセプトに、高度専門医療機能の強化と地域救急医療の充実に重点を置いた最先端の医療環境を整備し、数多くの最新医療機器を導入しています。また、高度急性期医療を支える「電子カルテシステム」、地域連携を支える「地域医療連携ネットワークシステム」も導入しています。



理念

特定機能病院として、診療・教育・研究のすべての領域において、医療を基盤とした社会貢献を目指す。

- 社会の信頼に応えうる医療機関
- 人間性豊かな医療人を育成できる教育機関
- 新しい医療の開発と社会還元が可能な研究機関

基本方針

1. 人間性を尊重した患者中心の医療の提供
2. 信頼関係を大切に安全で良質な医療の実践
3. 豊かな人間性と優れた医療技術を持った医療人の育成
4. 先進的医療技術の開発・導入・実践の推進
5. 災害・救急医療への積極的な取り組み
6. 地域医療連携の推進及び地域医療への貢献

病院長メッセージ

安全で質の高い
医療を目指します

病院長 藤原 祥裕



愛知医科大学病院は、1974年の開院以来一貫して人間性を尊重した患者さん中心の医療を提供することを心がけてまいりました。引き続き患者さんとの信頼関係を大切に安全で良質な医療を実践していきます。本院は高度な医療の提供・開発・研修を担う特定機能病院として厚生労働大臣から承認されています。本院の救命救急センターは愛知県内で唯一、高度救命救急センターとして定められているのに加えて、ドクターヘリ基地病院、基幹災害拠点病院の指定も受けており、まさに愛知県の救急・災害医療の要であると自負しております。また、地域がん診療連携拠点病院として地域の皆様に質の高いがん医療を提供してまいります。大学病院として優れた医療人を育成することも本院の重要な使命です。豊かな人間性と優れた医療技術を持った医療人を社会に輩出することによって社会に貢献していきたいと考えます。近年、医療の進歩はとどまるところを知りません。本院でも様々な新しい医療技術、薬剤、医療機器などの研究開発を通じて医療の進歩の一助を担えれば幸いです。少しでも皆様のお役に立てる病院を目指しながら、より良い医療の提供に全力を尽くしていく所存でございますので、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

指定

1986年 1月 特定承認保険医療機関	2010年 4月 肝炎診療連携拠点病院
1994年 2月 特定機能病院	2010年 6月 愛知県がん診療拠点病院
1996年 3月 高度救命救急センター	2011年 4月 救急告示医療機関
1996年10月 エイズ拠点病院	2013年 4月 地域周産期母子医療センター
1996年11月 災害拠点病院	2013年 9月 認知症疾患医療センター
1999年 2月 難病医療拠点病院 (現:難病診療拠点病院)	2018年10月 愛知県アレルギー疾患医療拠点病院
2002年 1月 ドクターヘリ事業開始	2019年 4月 地域がん診療連携拠点病院
2006年 9月 基幹災害拠点病院	

診療科目

消化管内科	心臓外科	耳鼻咽喉科
肝胆膵内科	血管外科	放射線科
循環器内科	呼吸器外科	麻酔科
呼吸器・アレルギー内科	乳腺・内分泌外科	総合診療科
内分泌・代謝内科	腎移植外科	形成外科
神経内科	脳神経外科	救命救急科
腎臓・リウマチ膠原病内科	整形外科	リハビリテーション科
血液内科	皮膚科	睡眠科
糖尿病内科	泌尿器科	感染症科
精神神経科	産科・婦人科	病理診断科
小児科	眼科	歯科口腔外科
消化器外科	眼形成・眼高・涙道外科	

中央診療部等

中央臨床検査部	栄養部	栄養治療支援センター
病院病理部	感染制御部	人工関節センター
中央放射線部	脳卒中センター	スポーツ医科学センター
中央手術部	細胞治療センター	てんかんセンター
リハビリテーション部	臨床腫瘍センター	脳血管内治療センター
高度救命救急センター	緩和ケアセンター	造血細胞移植センター
救急診療部	糖尿病センター	病院経営企画室
総合腎臓病センター	周術期集中治療部	医療安全管理室
輸血部	こころのケアセンター	医療連携センター
中央材料部	脊椎脊髄センター	卒後臨床研修センター
臨床工学部	臨床研究支援センター	医療情報部
睡眠医療センター	プライマリケアセンター	薬剤部
痛みセンター	総合物流センター	看護部
内視鏡センター	医療福祉相談部	
産科母子医療センター	先制・統合医療包括センター	

AREA INFORMATION

緑豊かな自然と 快適な生活環境が融合する 長久手市

愛知医科大学が位置する長久手市は、名古屋市と豊田市に挟まれたベッドタウンです。

2015年国勢調査では、全国の自治体の中で住民の平均年齢が最も若く、

人口増加率も全国で有数であることから「日本一若いまち」とも呼ばれています。

全国の都市を対象にした「住みよさランキング」でも上位に選ばれるなど、

県内でも注目を集める都市の一つです。

長久手市には、愛知医科大学を含め四つの大学があり、快適に安心して学べる環境が整っています。

緑豊かな自然に囲まれ、オシャレなカフェやレストラン、雑貨屋などの商業施設も充実しています。

NAGAKUTE MAP

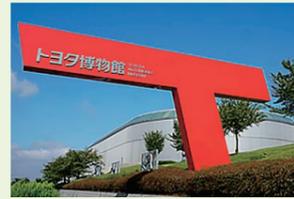


立石プラザ
1階にはコンビニと医療介護用品、2階にはフードコートが揃っています。診察やお薬、バスの待ち時間などにどなたでもお気軽にご利用いただくことができます。駐車場も完備されていますので、ぜひお立ち寄りください。



立石池
池の周辺には桜の木が立ち並び、春には花見スポットとしても人気です。

A トヨタ博物館



ガソリン自動車が誕生した19世紀末から20世紀の自動車の歴史を体系的に展示した自動車博物館です。

B イオンモール長久手



愛知医科大学から約10分と近く、映像と連動して座席が動く映画館も併設されています。

C 長久手温泉ござらっせ



農産物販売所も併設された複合型日帰り温泉。愛知医科大学の教職員や学生の方には特別割引もあります！

D 藤が丘駅



地下鉄東山線とリニモの始発駅。駅前には暮らしに役立つ施設が揃っています。

E リニモ



磁気浮上システムによる日本初の本格的な営業路線として開通。名古屋市の藤が丘駅と豊田市の八草駅を結んでいます。

F IKEA長久手



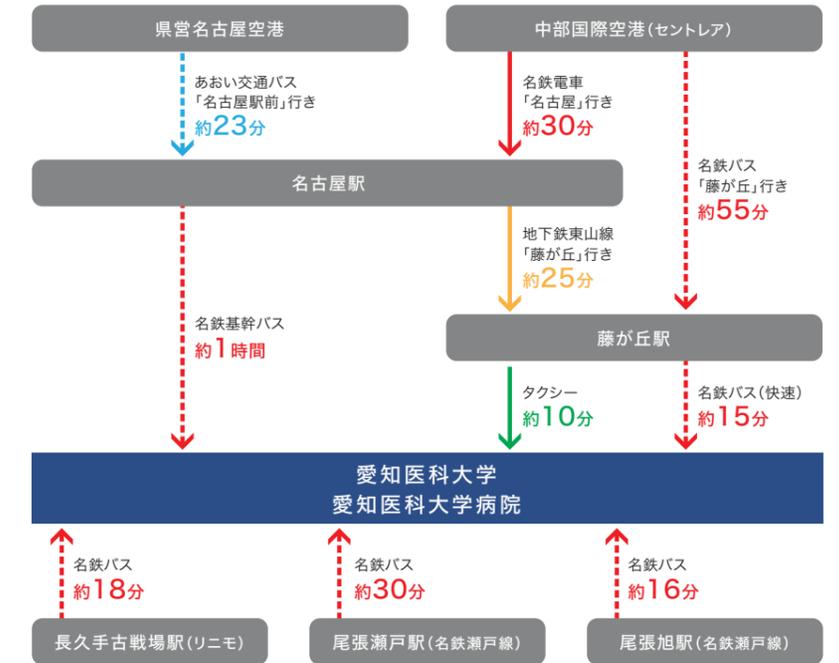
2017年10月に東海エリアで初めてオープン。倉庫のように広いスペースに組み立て式の家具や家庭用品を販売する北欧生まれの大型販売店。

G 愛・地球博記念公園 (モリコロパーク)



愛知万博長久手会場の跡地にオープン。万博でも人気を集めたサツキとメイの家を始め、観覧車や遊具などを揃えた総合公園。

ACCESS



公共交通機関をご利用の方



自家用車をご利用の方

